

## 利便性向上及び安全対策のための投資について

2020年 6月  
あいの風とやま鉄道㈱

2019年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分を活用し、更なる利便性の向上や安全対策の充実を図ることとしたい。

※ 残余額：予算額 454百万円－決算額 140百万円＝314百万円  
(下記項目は、2019年12月20日開催の利用促進協議会で説明済)

**1 斜面等予防保全対策の実施 (2020[令和2]年度) 30百万円**

昨年の台風19号をはじめとする風水害による斜面崩壊の復旧のための予防保全対策を実施し、列車の安全運行を確保するもの。

- ・ 整備箇所  
斜面対策工事 (1箇所) = 泊～越中宮崎間
- ・ 概算経費  
30百万円

**2 滑川駅のバリアフリー化の推進 (2021[令和3]年度) 90百万円**

昨年度実施した滑川駅のエレベーター設置に係る基本設計を踏まえ、国の補助が受けられることを前提に、来年度、建設工事を実施するもの。

- ・ 設置台数  
2台 (11人乗り) 既存の跨線橋に設置
- ・ 概算経費  
270百万円 (2021[令和3]年度 建設工事)  
(このうち国補助1/3及び滑川市・県補助1/3を除く90百万円について、2019年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分を基金内に留保。)

**3 投排雪保守用車の整備 (2022[令和4]年度) 194百万円**

現在運用しているラッセル車が製造から40年以上経過し老朽化していることから、新たに投排雪保守用車を整備するもの。2017年度及び2018年度の県経営安定基金剰余金活用

※保有ラッセル車2台のうち2台目の更新 (1台目は今年度に整備予定)  
※2台目は製造元の製造スケジュールの関係で2022[令和4]年度に導入予定。

- ・ 導入予定機種  
ENR-1000  
(今年度導入機種と同じ。ラッセル・ロータリーの両機能を有することから降雪状況に応じた運用が可能となる。)
- ・ 製造価格  
290百万円 (2022[令和4]年度 導入)  
(このうち国補助分1/3を除く194百万円について、2019年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分を基金内に留保。)

**合計 1 + 2 + 3 = 314 百万円**